

令和 6 年 6 月 9 日現在

機関番号：32689

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2023

課題番号：19K23180

研究課題名（和文）視線測定・調査実験による政治情報への接触の測定と理論の再構築 - 日米比較を通して -

研究課題名（英文）Measuring Exposure to Political Information and Reconstructing Theories Using Experimental Methods: A Comparative Study between Japan and the United States

研究代表者

劉 凌 (LIU, LING)

早稲田大学・高等研究所・講師（任期付）

研究者番号：80844521

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題は、実験の手法を用いて、政治情報への接触過程において、メディアに対する信頼度の高い日本人と、メディア不信が強いアメリカ人の違いを明らかにすることを目的としていた。2019年度に主要な実験を実施した。収集したデータを基に多面的な分析を行い、それらの結果を2020年度から2023年度にかけて国内外の学会で発表し、研究成果を広く公開した。学会で得たコメントを踏まえて学術論文をまとめ、国際ジャーナルに投稿し、査読プロセスを経ている。また、一部の研究結果を博士論文にまとめた。以上の実証結果を基に理論の再構築を試み、論文にまとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでの政治情報への接触過程に関する研究は、主にアメリカを対象としていたが、本研究は、メディアの信頼度が低いアメリカとは対照的な日本を事例に、多角的かつ体系的なデータ分析を行った。その結果、本研究は、政治コミュニケーション研究に新たな一般的知見を提供している。また、メディアへの信頼が政治情報への接触過程に与える影響を解明することにより、メディアへの信頼が低下した場合の政治的・社会的影響を明らかにし、メディアの信頼回復やポスト真実時代への対応に対する提言を行うという実践的な貢献もしている。

研究成果の概要（英文）：This research project aimed to clarify the differences between Japanese, who have high trust in media, and Americans, who have relatively low media trust, in the process of political information exposure using experimental methods. Major experiments were conducted in 2019. The collected data were analyzed from multiple perspectives, and the results were presented at domestic and international conferences from 2020 to 2023, widely disseminating the research findings. Based on the feedback from these conferences, academic papers were compiled and submitted to international journals, currently undergoing the peer review process. Additionally, some of the research results were incorporated into my doctoral dissertation. Based on these empirical results, theoretical reconstructions were attempted and summarized in a paper.

研究分野：政治コミュニケーション

キーワード：政治情報接触 選択的接触 実験 国際比較

1. 研究開始当初の背景

有権者の投票行動に対してメディアがどのような効果を持つかという問いは、政治コミュニケーション分野の古典的で現在においても重要な命題である。この問いに対する答えは研究の進展とともに変容してきたが、とりわけ Lazarsfeld, Berelson, & Gaudet (1948) と Klapper (1960) に代表される「限定効果論」によるパラダイム転換以降は、メディアが人々に与える影響は「限定的なものである」という観点が広く受け入れられていた。この観点を支える重要な仮説の一つが「選択的接触 (selective exposure)」である。つまり、人々はすべてのメディアコンテンツに均等に接触するのではなく、自分の既存の信念や態度に合ったメディアコンテンツにのみ接触する傾向がある。

しかし、選択的接触という仮説に関するこれまでの研究は、主にメディアへの不信感が高いアメリカを対象にしてきた。一方で、国際世論調査によると、日本人は他国の人々よりもメディアを信頼する傾向がある。このような背景を踏まえ、本研究は、政治情報への接触過程において、メディアに対する信頼度が高い日本人と、メディア不信が強いアメリカ人の違いを明らかにすることを目的として開始した。

2. 研究の目的

上記の議論を踏まえ、本研究の目的は、政治情報への接触過程において、メディアに対する信頼度が高い日本人と、メディア不信が強いアメリカ人の違いを明らかにすることである。

本研究の独自性・創造性は、アメリカと対照的にメディアへの信頼感が高い日本のケースを精緻に分析することで、先行研究の問題点を解決しようとする点にある。これまでの先行研究は主にアメリカで行われてきたが、メディアへの不信感が高いアメリカのデータから導かれた知見をそのまま日本に適用することには問題がある。本研究は、メディア報道への接触行動における日本人とアメリカ人の相違を解明することで、研究領域に新しい一般的な知見を提供することができる。

さらに、人々の情報に対する接触行動を直接観察し、精緻に測定することも本研究の特色である。人の情報接触を測定するために、多くの先行研究では自己報告の手法を使用してきた。しかし、自己報告には記憶の歪みがあるため、その手法の妥当性には長年にわたって批判がある (例: Sears & Freedman, 1967)。本研究では、実験の技術を利用することで、メディア報道に対する接触行動を直接かつ正確に測定し、従来の手法を大きく改善することができる。

3. 研究の方法

本研究は、主に実験の手法を用いて行った。実験の参加者は、調査会社を通して年齢・性別のバランスを考慮し、日本人 1200 人程度をリクルートした。実験では、参加者に研究者が作成した擬似ニュースサイトにアクセスしてもらい、そこに掲載した複数の政治争点に関連する新聞記事を自由に選んで閲覧してもらった。新聞記事のタイトルと要約が表示されるホームページでの視線停留時間、そして記事の選択と閲覧時間をソフトウェアにより記録した。さらに、この実験は、以前にアメリカで実施した実験をレプリケートする形式で行った。そのため、日本人の政治情報に対する接触行動を精緻に分析することができ、その上で、アメリカ人の情報接触行動と比較することも可能となった。

4. 研究成果

本研究からは、主に以下の三つの知見が得られた。

一つ目は、アメリカ人参加者と比べて、日本人参加者は、自らの態度と一致している政治情報を好んで積極的に接触し、自らの態度と相容れない政治情報への接触を避けるという選択的接触傾向がより不顕著であることが明らかになった。特に、自らの態度と一致している新聞記事に対する閲覧時間と自らの態度と一致していない新聞記事に対する閲覧時間を比較したところ、日本人も自らの態度と一致している新聞記事をより長く読む傾向が見られたが、その程度はアメリカ人ほど顕著ではなかった。

二つ目は、メディアへの信頼度が人の政治情報に対する選択的接触傾向と負の関係にあることがわかった。すなわち、メディアを信頼すればするほど、選択的接触の傾向がより弱いことが検

証された。

三つ目は、メディアへの信頼度が人の政治情報への接触行動に与える影響が、人の敵対的メディア認知を通じて働くというメカニズムが示唆された。人の認知を考慮に入れて分析したところ、敵対的メディア認知が重要な役割を果たしていることが明らかになった。メディアへの不信が強くなると、敵対的メディア認知が高まり、それにより、自らの態度と一致している情報を信じる傾向が強くなる。結果として、選択的接触の傾向も顕著になった。

本研究課題の実施中、世界的なパンデミックが発生し、研究の遂行にも大きな影響を与えた。しかし、研究者は収集したデータを基に多面的な分析を行い、その結果を 2020 年度から 2023 年度にかけて、日本選挙学会、日本社会心理学会、国際コミュニケーション学会、国際心理学会などの国内外の学会で発表した。パンデミックにもかかわらず、研究成果を広く公開することに努めた。また、学会で得られたコメントを踏まえて学術論文にまとめ、国際ジャーナルに投稿し、査読プロセスを経ている。さらに、一部の研究結果を研究者の博士論文にまとめ、博士論文を完成させた。実証結果を踏まえ、メディアシステム、メディア信頼、個人の認知や情報接触行動に重点を置いた理論構築を試み、論文にまとめた。データの収集から実証分析や理論の再構築に至り、本研究課題を成し遂げたと言える。

本研究はいくつかの重要な社会的意義を持つ。まず、メディアの信頼回復に向けた施策の提言に繋がる。メディアへの信頼が低下することで選択的接触の傾向が強まるという本研究の知見は、メディア企業や報道機関に対して信頼性の向上を図るための具体的な指針を提供する。透明性の確保、報道の正確性の向上、ジャーナリストの倫理教育の強化など、信頼回復に向けた取り組みが重要である。

また、メディアリテラシー教育の強化にも寄与する。本研究は、情報の多様性を尊重し、自分の意見と異なる情報にもアクセスする能力を育てるというメディアリテラシー教育の重要性を再認識させた。自らの情報接触行動を見直し、異質な意見にも意識的に接触することで、政治的分極化を緩和し、健全な民主主義の実現に寄与することが期待される。

<引用文献>

- ① Klapper, J. T. (1960). *The effects of mass communications*. Glencoe, IL: Free Press. (NHK 放送学研究室 1965 『マス・コミュニケーションの効果』日本放送出版協会。)
- ② Lazarsfeld, P. F., Berelson, B. R., & Gaudet, H. (1948). *The people's choice: How the voter makes up his mind in a presidential campaign*. New York: Harper and Row.
- ③ Sears, D. O., & Freedman, J. L. (1967). Selective exposure to information: A critical review. *Public Opinion Quarterly*, 31, pp.194-213.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 HINO AIRO、OGAWA HIROKI、FAHEY ROBERT A.、LIU LING	4. 巻 62
2. 論文標題 Japan: Political Developments and Data in 2022	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 European Journal of Political Research Political Data Yearbook	6. 最初と最後の頁 288～308
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/2047-8852.12402	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 HINO AIRO、OGAWA HIROKI、FAHEY ROBERT A.、LIU LING	4. 巻 61
2. 論文標題 Japan: Political Developments and Data in 2021	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 European Journal of Political Research Political Data Yearbook	6. 最初と最後の頁 264～286
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/2047-8852.12384	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Liu, Ling	4. 巻 なし
2. 論文標題 More than Confirmation Bias: Comparative Studies of the Multifaceted Nature of Political Information Selective Exposure	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 早稲田大学博士論文	6. 最初と最後の頁 1-113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Knobloch-Westerwick, Silvia, Liu, Ling, Hino, Airo, Westerwick, Axel, & Johnson, K. Benjamin	4. 巻 45
2. 論文標題 Context impacts on confirmation bias: Evidence from the 2017 Japanese snap election compared with American and German Findings.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Human Communication Research	6. 最初と最後の頁 427-449
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/hcr/hqz005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

[学会発表] 計13件(うち招待講演 3件/うち国際学会 8件)

1. 発表者名 Liu, Ling
2. 発表標題 Attitude resistance in high media trust contexts: New theoretical insights and additional questions
3. 学会等名 WIAS Monthly Workshop, Waseda University (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Liu, Ling; Kobayashi, Tetsuro
2. 発表標題 Contextual differences in political selective exposure and the role of media trust
3. 学会等名 2023 International Communication Association Preconference Digital Asia: Authenticity in Communication and Engaged Citizenry (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kobayashi, Tetsuro; Zhang, Zhifan; Liu, Ling
2. 発表標題 Is partisan selective exposure an American peculiarity? A comparative study of news browsing behaviors in the United States, Japan, and Hong Kong
3. 学会等名 2023 International Communication Association Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Liu, Ling
2. 発表標題 Attitude resistance in high media trust contexts
3. 学会等名 Public Hearings for Moritz Schlick Early Career Programme (MSECP) at the University of Vienna (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kobayashi, Tetsuro; Liu, Ling
2. 発表標題 Cultural contingencies of selective exposure: Cross-cultural studies in Japan, the US, and Hong Kong
3. 学会等名 2021 Annual Conference of International Congress of Psychology (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Liu, Ling, Knobloch-Westerwick, Silvia, Westerwick, Axel, McWilliams, Evan, Hino, Airo
2. 発表標題 Confirmation Bias Versus National Ingroup Favoritism: Political Information Exposure Beyond the U.S. Context
3. 学会等名 International Communication Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 劉凌、小林哲郎
2. 発表標題 選択的接触の地域差とメディア信頼
3. 学会等名 日本選挙学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小林哲郎、劉凌
2. 発表標題 党派的な選択的接触の日米差
3. 学会等名 日本社会心理学会年次大会
4. 発表年 2020年

1 . 発表者名 Liu, Ling
2 . 発表標題 Political selective exposure in high- versus low-media trust contexts.
3 . 学会等名 International Communication Association (pre-conference) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Knobloch-Westerwick, Silvia, Liu, Ling, Hino, Airo, Westerwick, Axel, & Johnson, K. Benjamin
2 . 発表標題 Confirmation bias in the 2017 Japanese snap election: Comparisons with American and German findings.
3 . 学会等名 International Communication Association (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Liu, Ling
2 . 発表標題 Cross-national differences in confirmation bias and the role of media trust.
3 . 学会等名 University of Amsterdam (ASCoR) (招待講演)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Liu, Ling
2 . 発表標題 Cross-national differences in seeking of political information and the role of media trust
3 . 学会等名 3rd Waseda Brussels Conference (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1. 発表者名 Liu, Ling
2. 発表標題 Panel discussion: Negative campaigns & trust in politics
3. 学会等名 3rd Waseda Brussels Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Liu, Ling	4. 発行年 2024年
2. 出版社 Edward Elgar Publishing	5. 総ページ数 -
3. 書名 Confirmation Bias (In A. Nai, M. Groemping, & D. Wirz (Eds.), Encyclopedia of Political Communication)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	オハイオ州立大学	フロリダ大学	ジョージ・ワシントン大学	
中国	香港城市大学			
オランダ	アムステルダム大学			